

《株式会社エフエム東京 第419回放送番組審議会》

1. 開催年月日:平成 27 年 6 月 9 日(火)
2. 開催場所 :エフエム東京 本社 10 階 大会議室
3. 委員の出席:委員総数6名(社外6名 社内 0 名)

◇出席委員(4名)

横 森 美 奈 子 委員長	内 館 牧 子 委員
ロバート・キャンベル 委員	川 上 未 映 子 委員

◇欠席委員(2名)

渡 辺 貞 夫 委員	秋 元 康 委員
------------	----------

◇社側出席者(10名)

富木田 代表取締役会長
千 代 代表取締役社長
唐 島 専務取締役
石 井 常務取締役
平 常務取締役
山 科 常勤監査役
村 上 執行役員 編成制作局長
延 江 編成制作局 ゼネラルプロデューサー
宮 野 編成制作局 編成制作部長
大 橋 編成制作局 番組プロデューサー(オブザーバー)

◇社側欠席者(1名)

藤 取締役 マルチメディア放送事業本部長

【事務担当 村上放送番組審議会事務局長】

4. 議題: 番組試聴 (約 20分)
「東京海上日動 Challenge Stories～人生は、挑戦であふれている～」
2015 年 4 月 11 日(土) 15:30～15:55 放送

＜議事内容＞

議題 1: 当社新経営体制変更についての報告

6月25日開催の当社定時株主総会以降の当社経営体制の候補者について、冨木田会長より、報告をいたしました。詳細は別紙の通りです。

議題 2: 最近の活動について

■ 2015 年 4 月 度 聴取率調査結果について

2015 年 4 月の首都圏ラジオ合同聴取率調査結果が、ビデオリサーチより発表されました。(調査対象期間: 4 月 20 日～4 月 26 日)

今回は、当社メインターゲットである M1F1 層(男女 20-34 才)でスコアが回復し、全日平均で在京局中単独トップを獲得しました。男女 20 代区分の全日平均でも単独トップを獲得。また、12-59 才のリーチ(到達率)は 8 期連続で単独首位を継続中で、若者リスナーを中心に幅広い世代のリスナーから高い支持を獲得する結果を得られました。

今回の特長として、M1F1 層単独トップの要因には F1 層(女性 20-34 才)の好調が挙げられ、課題であった平日ワイド帯で 9 つの番組が同時間帯の単独トップを獲得しました。その一方で、全日平均の男女 30 代と 40 代区分でスコアが微減した点、また曜日別で見れば平日と日曜は概ね堅調にスコアを獲得したものの土曜でスコアが低迷した点など、課題を残す結果となりました。

引き続き当社編成方針に則り、ターゲット層に根差した番組コミュニティ形成や話題提供、WEB を駆使した広報戦略等を実践し、今後も課題と向き合いながら、リスナー第一主義の番組づくり、共感のある放送を心がけ、さらなる聴取率向上に向けて努めてまいります。

■ SCHOOL OF LOCK! 10 周年 ANNIVERSARY TOUR 「全国家庭訪問」を実施中

「SCHOOL OF LOCK!」(月～木 22:00～23:55)では、毎月 1 回、JFN 系列局を訪問し、とーやま校長とあしざわ教頭が地元のローカル番組に出演するなど各局を盛り上げながら、現地から SCHOOL OF LOCK! を放送しています。これは全国の FM がエリアフリーで聴ける IP サイマル放送「ドコデモ FM」の PR も兼ねて実施されるもので、4 月 27 日(月) FM 石川を皮切りに、5 月 25 日(月)は FM 高知を訪問。今月は 6 月 30 日(火)に FM 三重を訪れます。今年度中に計 10 局の FM 局とコラボレーションします。リスナーを創造し育成する同番組が、新たな 10 代掘り起しのために日本各地のティーンたちのもとを行脚し、彼らとのインターフェイスを強化してまいります。



【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

○SCHOOL OF LOCK!が10年経つとは素晴らしい。最初は、賛否両論あったが、いい形でリスナーとの密な関係性が築けているように思う。

■時代の変遷とともに、当初キャッチできた10代と、今の時代の10代の生理や心理を捉えるのが難しく、時にそれが聴取率に反映されてしまうことがある。常に試行錯誤しながらやっている。

○今の10代は、何の端末を使ってラジオを聴いているのだろうか。甥っ子が10代で、この春中学生になったばかりだ。iPhoneはまだ与えられていないようだが、彼らには一人一台iPadが当たり前になりつつある。アプリを落とせば、iPadでもラジオを聴ける。そういう意味では広がっているのではないか。

■若年層のラジオ聴取は、アプリ経由での聴き方が習慣として広がってきている。一時期、ラジオの聞き方さえわからないという世代がいたが、スマートフォンのラジオアプリが普及してきているので、聴取デバイスの躍進が10代ラジオリスナー減少の食い止めの一つになっていると思う。

○10代はYouTubeを見るのが好きで、あの中コンテンツに敏感だ。それと同じ感覚でラジオが聴けるのは良い。ラジオ用の端末を用意しなくても、自分がすでに持っている端末の中で聴けるというのが良い。

■電波ではなく、アプリ経由になることで、「radiko.jp プレミアム」のように地理的な縛りが解かれた。横浜にいながら福岡のラジオを聴く、といった楽しみ方が増えたのではないか。個人的にも、時間帯ごとに面白いローカルラジオ番組を見つけたりしている。

○radikoのエリアフリー聴取では、FM沖縄が人気になったりしているようだ。

民放連の方でも、「radioweb.jp」という全国の民放ラジオ局のタイムテーブルが一堂に会した WEB サイトを作るなど、ラジオのリーチを拡げる取り組みを行っている。日頃、各局は凌ぎを削るライバルでありながら、ラジオ全体のリーチを拡げるという活動も重視している。

■今、全国 78 局が参加している radiko のエリアフリーのサービスは、月額 350 円で全国のラジオが聴けるものだが、現在約 21 万人が利用している。1 年間でこれだけ伸びてきた。毎月 5,000～6,000 人が新規ユーザーとして増えているが、ユーザー構成をみると 10 代は約 7%ぐらいしかなく、30・40・50 代で約 8 割を占めている。お金がかかることもあり、若年層は少ない。

○その有料サービスは、どうやって解約するのか？

■アプリ上で「解約する」というボタンを押せば解約できる。カード決済で、月額分は引き落とされる。実態は、解約する人はほとんどいない。解約率は 10%程度と低い。

○解約する人へのフォローもするといい。解約したときに厚くお礼を言われると、また入ろうかなという気になる。

○解約するのが面倒でそのままにする人もいがちだ。

■月額が通信料と一緒に引かれるので、わからなくなっているのかもしれない。これだけユーザーが伸びており、新しいことに投資できる環境にもなってきたので、この先もラジオのあり方が大きく変化するかもしれない。

○radiko プレミアムが登場した当初は、お金を払ってまで聴くだろうか？という議論もあったがその懸念はなくなったか。

■予想以上に受け入れられている。都市生活者も地方出身の人が多いため、地元の放送を聴きたいとか、地元の球団の野球中継を聴きたいといったニーズがあるようだ。

○サービスに満足できればユーザーはお金は払うのではないか。

○なぜ SCHOOL OF LOCK!がうまくいっているのかという要因を考えると、今の若い人の時代性と、ちょっと昔の熱さのバランスがうまくいっていると思える。校長と教頭の写真を見ても、ハットをかぶったりして今っぽいけど、いざという時には熱いことを言う。これが行き過ぎるとクサクなり、ダサくなるのだが、非常にいいバランスだ。このバランス感以外のこともうまく生かせるかもしれない。

○10年前と単純比較はできないが、当時 radiko 登場以前で、“ラジオ離れ”といったことがずいぶん言われた。その後、デバイスが多様化していった一方で少子化も進む。若年層は非常に移ろいやすい層だ。若年層におけるラジオ聴取者の推移は傾向としてどうなっているか？

■「セットインユース」と言うラジオ接触者の絶対数は減っている。ゆくゆくはラジオリスナーを育てていかななくてはならないという会社の使命があるので、「SCHOOL OF LOCK!」のような番組がティーン層との接点の橋頭堡としていかに機能しきれるかが、非常に大きい宿題だと認識している。現実的には少子化の波の中で接触者は減っているが、その中でシェア1位を獲得し続けたいと思っている。

○少子化だからといってやめるのではなく、その中でチャレンジしていくのは良いことだと思う。

議題2: 番組試聴

【番組名】「東京海上日動 Challenge Stories～人生は、挑戦であふれている～」

出演: 恵 俊彰

ゲスト: 宮下純一

(スポーツキャスター / 北京オリンピック競泳メダリスト)

【放送日時】 2015年4月11日(土) 15:30～15:55 放送 (JFN38局フルネット)

【番組概要】

本日試聴いただくのは、今年4月よりスタートした新番組、「東京海上日動 Challenge Stories～人生は挑戦であふれている～」です。

タイトルの通り、この番組は、「人生とは、挑戦の繰り返しである」をテーマに、毎週、各界で活躍するゲストを迎えて、夢を掴むまでの道のり、そのストーリーを伺っています。

パーソナリティは、テレビ、ラジオの司会でおなじみの恵俊彰が務め、1組のゲストを前編／後編という形で2週に渡ってお迎えしています。

本日も試聴いただく回は、元競泳選手で、引退後の現在はスポーツキャスターとして活躍中の宮下純一氏をゲストに迎えた回の後編です。

前週に放送された前編では、恵さんと宮下さんがテレビの『ひるおび!』でも共演しており、さらに同じ鹿児島出身、しかも小学校と高校は同じ学校の出身と縁の深い関係であること、また、お風呂にも入れないほど水が苦手だった幼少期から、無理矢理入れられた水泳教室で水泳を始め、目指していた自由形から背泳ぎに転向して頭角を現すまでの話が語られました。

この後編では、アテネ五輪出場を僅差で逃した挫折から、北京五輪出場を果たすまでのエピソードが語られます。



【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見 / 「■」社側説明)

○正味 20 分程度の尺感はすごく良かった。恵さんの緩い進行も、よく知っている間柄という雰囲気、宮下さんの駆け抜けていくような、語り切るスタイルも彼に合っていた。ゲストによって異なると思うが、今回はスピード感があって良かった。

お母さんの話、アテネから北京の辛い4年間の話、五輪がディズニーランドのようだったこと、帰ってきたら運を使い果たしてじゃんけんにも勝てない、といったエピソードは良かった。曲は少なかったが、このくらいの尺は聴きやすい。

○今回の放送に寄せられた感想としては、どんなものがあったか？

■番組から、ゲストに書いていただいたメッセージ色紙のプレゼントをしているが、全国のいろんな方から好評をいただいている。「人生は挑戦の繰り返しである」というテーマが、リスナーの皆さんへのエールになっているが、そこを体現されている方がゲストにいらっしゃるので、宮下さんの回に限らず、「聴いていて力をもらった」、といった反響が多い。

○ゲストはどんな基準で選定しているか？

■ゲストは、当然挑戦しているストーリーをお持ちの方が大前提だが、ラジオで顔が映らない分、名前を聴いたときにある程度誰だかわかることが、リスナーのシンパシーにもつながるので、全国的な知名度があることも気にしている。特にこの番組はスポンサーである東京海上日動さんがオリンピックに力を入れている企業ということもあり、オリンピック選手、スポーツ選手といったゲストも他の番組より多くなっている。

○宮下さんのお話はとても滑らかで、ご自身の体験をきちんと言語化されていた。日本人は、人の苦労話や、どういうことを乗り越えてどう克服したか、というストーリーに慣れているので、安心して聴ける。ここに出られているということは、成功を収めているということもあり、良くも悪くもだが、安心して受け止められる。そういう意味で、質のいい番組だなと思った。

ゲストが今後どうなっていくのかと考えながら聴いていたが、例えば、「情熱大陸」だと時々、全然知らない、金沢のお寿司屋さんの板前さんが登場したりする。元は全然有名ではないが、その番組を通して皆の注目を集め、話題になることもある。

この場合ラジオなので、確かに皆さんが「この人」と分かる人のラインはあると思うが、みんなが知っている人をさらによく知るといふ方向性もあるし、知らない人だが、こういう人生があるんだ、こういう仕事があったんだ、という方向性もあると思う。今後の発展の仕方として、後者の可能性もあると思った。

ラジオなので、顔が出ないし、情報が少ない、またゲストの話術によるところはあるが、ゲストを探る上では、今後いろいろな可能性があると思う。形自体は安定感があるので、中身を少し変えても、リスナーはついてくるのではないかな。

■まだ番組が始まって1クールも経っていないので、ゲストに関してはまだ分かりやすさを重視しているところがあるが、もしこの番組を長期的に続けることができれば、そういった知名度によらない内容の作り方も、当然ながら、やっていきたい方向性だ。その場合、編集の仕方や番組の構成も変わってくると思うが、日々試行錯誤しながら、改善していきたい。

○今回のように、「北京五輪出場」など目標が一つに絞られている人は分かりやすいと思う。

■曲を省くと中身が 20 分もいかない尺なので、全体的な表面をなぞるだけだとそれだけで終わってしまう。一つ深い部分のテーマを設定した上で、そこにどこまで潜っているかを模索している。

○今まで、他にはどんなゲストが出ていたか？

■パティシエのトシ・ヨロイツカさんや、舞台演出の宮本亜門さんなどに出ていただいた。ラジオ局は、どうしても音楽業界とつながりが深いので、アーティストをゲストに招きがちだが、この番組では、文化人やスポーツ選手の方々を中心に出演交渉をしている。

○「人生は、挑戦であふれている」は、ちょっとクサクていいタイトルだ。ただ「人生は挑戦だ」と言うより、「あふれている」と言った方が人数も感じるので、影響されたり、救われたりする人も多いと思うし、内容も面白い。

が、一番の難点は編集と構成。お母さんの言葉もすごく良いし、それによる宮下さん自身の変化も面白い。社長に言われた言葉もすごくいい。なのに、編集にも構成にもメリハリがなく、結局お友達二人がダラダラとしゃべっている感じになってしまっているので、せっかくのいい言葉が埋もれてしまって届かない。後半、「挑戦とは…」と語れば語るほど、聴いている方がげんなりしてくる。

例えば、テレビドラマだったら、まず頭で引っ張り、視聴者を絶対離さないという作戦がある。原作小説の単行本の中盤以降にある劇的なエピソードをいきなり1話のラストに持って来てしまい、2話目に視聴者をつなげる大胆な作戦に出たりする。構成上、この話を持ってこないとお客さんが逃げてしまう・などと考えて、大事なセリフ部分の演出を相当意識している。このように語らせる場合も、ロングで録らないなど考えたりする。

この場合も、ある素材を動かして、構成を入れ替え、印象に残るような編集をきちんとやらないといけない。面白いし、ゲストも良いのもっと工夫しないともったいない。

○土曜日の午後の寛いだ時間を想定すると、この男の人同士の普通の会話の作為的なところが無いのいいのか、それとも意図がなさすぎるのか、気になった。聴きながらふっと気持ちが離れてしまうと、何のことをしゃべっているか分からなくなり、退屈を感じる。ゲストによってお話の上手な方と、そうでない方がいる。基本的にゲストはしゃべりのプロではないので、メリハリがない喋り方になってしまうところは演出を入れたいもったいない。せっかく恵さんがいるのに、恵さんの存在感がなかった。インタビュアーとして定評のある方だと思うが、もう少し引き出し方で話を盛り上げ、メリハリをつけられる気がした。またスポーツ選手に寄った熱い話ばかりではなく、違うタイプのゲストも入れるなどのバランス感覚も必要だと思う。

6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

- ① 放送: 番組「SPO☆LOVE」
6月27日(土)5:00～6:50放送
- ② 書面: TOKYO FM サービスセンターに据え置き
- ③ インターネット: TOKYO FM ホームページ内 <http://www.tfm.co.jp>

7. その他

次回の放送番組審議会を、7月7日(火)に開催することを決めた。

放送番組審議会委員各位

当社新経営体制変更の件

2015年4月27日開催の取締役会において、6月25日開催の当社定時株主総会以降の当社経営体制につきまして、取締役11名中9名を重任し、新たに3名の選任により12名の候補者を決定致しました。

しかしながら、JFN ネットワークの準キー局である株式会社エフエム大阪の田辺善仁代表取締役社長が健康上の問題から6月の株主総会をもって急遽退任せざるを得ない状況となりました。

JFN ネットワークは当社のコア・コンピタンスであり、準キー局である FM 大阪は特に重要な位置づけにあります。FM 大阪は現在経営改革の端緒についたばかりであり、これからの数年間が立て直しの最も重要な期間となります。従いまして、当社からの経営改革を推進できる人材の派遣が急務となっております。

つきましては、現在 FM 大阪の社外取締役であり、営業担当時代に関西支社長も経験し、人脈も幅広く、長年の営業経験と、現在の編成制作局担当としての経験を併せ持つ石井博之常務取締役が適任であり、FM 大阪の代表取締役社長として派遣することと致しました。

つきましては、編成制作局担当役員として千代社長の直接担務とし、新たに1名、村上正光執行役員編成制作局長を取締役選任候補者とするものと致しました。

なお、新体制では石井常務が総務局担当を兼ねる予定でありましたが、新任の吉田常務の担当と致します。

いずれも6月25日開催の定時株主総会にて正式選任予定です。

1. 2015年6月25日以降の変更後の新経営体制(案)

※下線は、4月27日取締役会決議案からの変更点です。

取締役氏名	役職名(新)	担当部門
富木田 道臣 (重任)	代表取締役会長	経営全般
千代 勝美 (重任)	代表取締役社長	経営全般、 <u>編成制作局</u> 、業務監査部
平 一彦 (昇任)	専務取締役	経営全般、営業局、 マルチメディア放送事業本部
吉田 乾朗 (新任)	常務取締役	経営全般、経営戦略室長を委嘱、 グループ経営管理室、 <u>総務局</u> 、秘書部
藤 勝之 (重任)	取締役	マルチメディア放送事業本部長を委嘱 (※東京マルチメディア放送株式会社社長)
武内 英人 (新任)	取締役	マルチメディア放送事業本部・副本部長を 委嘱(※TOKYO SMARTCAST 株式会社社長)
<u>村上 正光</u> (<u>新任</u>)	<u>取締役</u>	編成制作局長を委嘱

北島 元治 (重任)	社外取締役	大日本印刷株式会社常務取締役
高見 和徳 (新任)	社外取締役	パナソニック株式会社代表取締役副社長
前田 伸 (重任)	社外取締役	日本電波塔株式会社代表取締役社長
松前 義昭 (重任)	社外取締役	学校法人東海大学 理事長
矢野 薫 (重任)	社外取締役	日本電気株式会社 取締役会長

※ 取締役の唐島夏生氏、石井博之氏、桂 靖雄氏は、6月25日開催の当社定時株主総会終結の時をもって任期満了により退任となります。なお、石井博之氏は、株式会社エフエム大阪の6月29日開催の株主総会において代表取締役社長就任予定であります。

監査役氏名	役職名等
山科 敏夫 (任期中)	常勤監査役
池田 輝彦 (任期中)	社外監査役
溝呂木 商太郎 (任期中)	社外監査役

2. 2015年6月25日付執行役員体制(案)

(1) 執行役員体制(6月25日付)

執行役員氏名	役職
東 和志 (任期中)	執行役員 グループ経営管理室長
大橋 明夫 (重任)	執行役員 総務局長
唐島 一臣 (任期中)	執行役員 営業局長

3. 取締役新任候補者の略歴

氏 名 (生年月日)	当社における略歴	
<p style="text-align: center;">吉田 乾朗 (1961年3月14日生)</p>	<p>2004年4月 2004年11月 2005年7月 2008年6月 2009年7月 2011年5月 2011年6月 2012年7月 2014年7月</p>	<p>メディア企画局編成部長 メディア企画局マーケティング部長 編成制作局編成部長 営業局クロスメディア営業推進部長 経営企画室秘書部長 経営企画室長 兼 秘書部長 執行役員経営企画室長 兼 秘書部長 執行役員経営企画室長兼 統合メディア戦略室長 兼 秘書部長 執行役員経営戦略室長 兼 経営戦略部長 (現在に至る)</p>
<p style="text-align: center;">武内 英人 (1964年5月23日生)</p>	<p>1988年4月 1996年11月 2004年4月 2005年3月 2006年4月 2010年4月 2012年4月 2013年5月</p>	<p>株式会社読売広告社入社 テレビラジオ局ラジオ部 当社入社 営業局首都圏営業部 メディア企画局 局次長 事業開発局長 執行役員エンタテイメント事業局長 執行役員クロスメディアビジネス局長 執行役員エンタテイメント事業局長 執行役員マルチメディア放送事業本部 副本部長 (現在に至る)</p>
<p style="text-align: center;">村上 正光 (1961年1月17日生)</p>	<p>1998年4月 2000年7月 2004年11月 2006年4月 2006年9月 2007年4月 2008年6月 2011年5月 2013年5月 2014年10月</p>	<p>営業局 首都圏営業部長兼多摩支局長 制作局 チーフプロデューサー 営業局 ネットワーク部長 営業局 局次長 兼 ネットワーク部長 営業局 局次長 兼 営業推進管理部長 営業局 局次長 兼 クロスメディア営業推進部長 執行役員 編成制作局長 執行役員 総務局長 執行役員 編成制作局長 執行役員 編成制作局長兼業務管理部長 (現在に至る)</p>

<p>高見 和徳 (1954年6月12日生)</p>	1978年4月	松下電器産業（現パナソニック）株式会社入社
	1998年12月	同社 電化・住設社 経営企画室長
	2002年1月	松下冷機株式会社 冷蔵庫事業部長
	2002年6月	同社 取締役
	2004年6月	松下電器産業（現パナソニック）株式会社 ナショナルマーケティング本部長
	2006年4月	同社 役員
	2008年4月	同社 常務役員
	2009年4月	同社 ホームアプライアンス社 社長
	2009年6月	同社 常務取締役
	2012年1月	同社 アプライアンス社 社長
	2012年4月	同社 専務取締役
	2015年4月	同社 代表取締役副社長（日本地域担当、CS担当、デザイン担当）
		(現在に至る)

以上